

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100793		
法人名	社会福祉法人 元気村		
事業所名	栗橋グループホーム翔裕園		
所在地	埼玉県久喜市小衛門951-5		
自己評価作成日	令和4年10月8日	評価結果市町村受理日	令和5年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和4年12月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内での催し物を強化している。
 食事面では入居者が要望したものや普段食べない物などを職員が手作りで提供している。
 現在、試験的にを行っている為職員中心で行っているが、軌道に乗れば入居者と共に行っていく事になっている。
 行事等行っている事をホームページに掲載し施設での取り組みを外部やご家族等が閲覧できるようにしている。
 排泄関係も内服調整だけではなく食事療法も取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理職の交代により業務のリニューアルを図っています。居室担当職員の役割、カンファレンス方法など改善の効果を確認しています。
 ●eラーニングを活用した研修を開始しており、職員に対して虐待防止、身体拘束の廃止等について確認する機会を提供しています。職員の負担や都合と自己研鑽とのバランスを図りながら支援の質の向上に取り組んでいます。
 ●茶道、読書、絵画、植物の栽培、書道など利用者それぞれの趣味が継続されています。また窓越し面会であるものの、回数制限をせず、家族の要望に応えています。
 ●植物、趣味の道具など自由に持ち込まれており、利用者それぞれのパーソナルスペースとなっている。利用者が思い思いに過ごすことができる環境が用意されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍という環境の中で、通常行ってきたことに大きく影響されている。感染予防対策を最優先として、その中でも楽しんでいただけるよう配慮している。	管理職が変わり、業務体制・方法等の変更を行っている。またパンフレットもホームの特徴や写真を盛り込みわかりやすい内容としてリニューアルしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体で行っている清掃関係には出席しているが、入居者は参加出来ていない。	新型コロナウイルスの影響により地域との交流が中断・縮小している。終息が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為外部との接触を極力減らしている為行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防対策として現在運営推進会議は書面開催としているが、年間6回は行えている。	新型コロナウイルスの影響により運営推進会議を書面開催している。民生委員等メンバーには報告書面を直接持参するなど関係継続に努めている。	次回より集合開催を予定している。家族との面会や外部者の入室などの意見を聞き、運営の参考としていく意向をもっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議は毎回参加していただいているが、今年度より運営推進会議に関しての管轄が変更となっている。	新型コロナウイルスの蔓延防止策等相談しながら対応にあたっている。同施設内の他サービスも含め、行政・関係機関との連携に努めている。	オレンジカフェの来年7月開催、学生への福祉用具体験の実施を予定している。新型コロナウイルスの影響を考慮しつつ、地域貢献を通じて事業所の更なる認知度アップが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はボタン式の自動ドアになっている。	法人他施設も交えた身体拘束廃止委員会に参加し、適切なケアについて確認にあたっている。eラーニングを活用した研修を開始しており、虐待防止、身体拘束の廃止等について研鑽を図る機会を提供している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度併設施設と共に虐待防止委員会の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	指針はあるが全員が理解しているとは言い切れない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、その後入居までの間も随時質問等をお受けして対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加型の会合は行えていない。	コロナ禍にあつて窓越し面会の実施など工夫に努めている。家族への便りは報告書面をリニューアルし、より求める情報の提供が始められる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営の話は随時聞く環境は出来ており、現状や今後の事も含めて説明している。	職員のカンファレンス方法を変更し、居室担当職員からの発信を強化している。正職員比率が高いことを活かし、更なる職員の育成として機能している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価表を作成し評価が行われている。定期的に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の取り組みにて現在は、WEB上で必要事項を各職員が取り組めるシステムとなっており、管理者が進捗状況等を把握して個人の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でも会議や委員会等があり、各施設の職員の接する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族に書類を渡し、本人の生活暦等細かい内容を教えてもらい、ケア向上になるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点より聞き取りを行っており、希望に添える様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要事項を聞き取り、自施設で対応が可能なかの説明を行い、必要の際には他事業所の説明等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かしてできる事は行ってもらうか、一緒に行くように取り組んでいる。また、担当制度にして行っているフロアもある。その際に本人の意志に反する対応は行わない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	長くご利用されているご家族は、窓越し面会の現状に足が遠のいてしまうという言葉は頂戴している。コロナ禍より入居されている方のご家族は、窓越しでも直に会えることに喜ばれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の対象や人数に制限はかけていない。時間に関しては相談させていただいている。急な訪問等でも可能であれば面会の対応を行っている。	茶道、読書、絵画、植物の栽培、書道など利用者それぞれの趣味が継続されている。窓越し面会であるものの、回数制限をせず、家族の要望に応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者に対して、共同生活の中での性別や認知度、相性等を把握しトラブルが発生しないよう関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時は連絡をいただけるよう話している。退居後に必要書類があるとの事で対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り要望に応じているが、他入居者にも影響を及ぼす場合には行えない事もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	意向に添えるよう努めている。おおよその時間軸はあるが、強制はしておらず、本人の意向に合わせて行っている。各担当職員がより深く理解するよう体制を構築。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に本人の状態や要望、ご家族の意向、訪問リハビリスタッフ、看護職員、居室担当者を中心に作成をしている。	利用者の望み、家族の意向等を聴取しながら計画の策定にあっている。モニタリングとアセスメントは居室担当職員が行うなど現場からのボトムアップの強化にあっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員により把握している情報量が違う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍により生活に制限がかかってしまっている為、少しでも要望に近づけられるように新たな試みは随時取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かしているとは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度往診を行っており、かかりつけ医では困難な症状の場合はかかりつけ医より専門医療機関等の紹介を行っている。	長年委託し、利用者の状態を把握している協力医療機関の往診が定期でなされている。また看護師を中心に健康管理と維持向上に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐ではないため、出勤の間に起きた事柄をまとめて情報提供を行い、指示や助言をもらっている。往診等にも同席している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームからは情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針の説明は契約時に行っている。	契約時に重度化と終末期の支援について指針を用いて説明している。利用者の変化時には再度説明し、タイミングと選択幅についての話し合いに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成されている。実践的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回避難訓練を行っている。	定期で避難訓練を実施しており、併設施設と連携しながら水害時対応等を進めている。浸水箇所等についても確認しており、避難ルートの見極めなどなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの部分に関してはそれぞれの関係性や距離感があるので大目に見ている。接遇に関しては“です・ます”口調で行うよう指導している。マニュアルもある。	利用者の特性の把握、利用者を受け入れてもらえるための接遇など経験ある職員により熟達した対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り行えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が難しい方には一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアによって異なるが、フロア的环境に合わせてながら準備や片付けを行っている。	栄養バランスや嗜好を考慮した食事提供がなされている。またおやつや食事レクリエーション時には皆でつくるなど利用者の楽しみが増えるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最低限、食事量は個別に検討した上での量を提供しよう行っている。更に栄養状態にて、補う必要があればご家族にも協力をお願いしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	おおむね対応出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導が必要な方には時間の感覚を確認し、尿意や便意の確認を取ってから誘うようにしている。	利用者の状態にあわせたサニタリー用品の選定にあっている。スキントラブルについては、用品の変更、薬剤の塗布等対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料やくだもの等の提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	制限は決めておらず、訴え時にはいつでも行えるようにしている。最低でも週2回の提供を行い清潔保持を行っている。	利用者の意思を尊重し、ホームや職員都合の支援とならないよう配慮に努めている。気持ちをアップさせる声かけなど対応の工夫に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自己発信ができない方に対しては様子を確認しつつ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロア毎ではなく施設全体で対応を統一して取り組んでいる。調剤薬局とも連携を図り管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	敷地内の散歩やドライブでしか外出は行っていない。施設内での楽しみ・支援を強化して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策にて他者と接する外出は出来ていない。	ドライブや三密を避けた場所への外出などコロナ禍にあって工夫をしながら利用者のストレス解消に尽力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、金銭管理は行っていない。 個人より訴えがあった場合は家族に相談し、購入や持ち込みの依頼をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は訴え時、辻褄が合わない内容等の場合を除き対応は行っている。手紙は訴えがあれば随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	景観作りも入居者と作成したものを取り入れて、季節感を感じてもらえるように行っている。 人間関係のトラブル回避を含めて座席は決めてはいるが、特に強制はしていない。問題が無ければ状況や希望に応じて柔軟に対応し自由に行っている。	消毒、換気など感染対策を講じながら共同生活を進めている。利用者のストレスを緩和し、落ち着いて過ごせる環境提供に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物に関しては火器、刃物を除いて自由となっている。	読書、テレビ鑑賞、洋服の整理等々居室にて思い思いに過ごす環境がある。植物、趣味の道具など自由に持ち込まれており、利用者それぞれのパーソナルスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人が分かりやすく行いやすいように配慮して対応している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域密着サービスとして運営しているが、コロナ禍という環境の中で、感染予防対策が最優先され、地域貢献や入居者の社会交流の機会が減ってしまっている。	感染対策を踏まえつつ、地域高家や入居者の外出する機会を増やしていく。	運営推進会議の各構成員の周りの高齢者等の生活環境の変化や現状などを教えていただき、また入居者家族にも施設の意向を報告し、家族の意見も取り入れて入居者の生活環境の改善に努める。	6ヶ月
2	5	地域密着サービスとして運営しているが、コロナ禍という環境の中で、感染予防対策が最優先され、地域貢献や入居者の社会交流の機会が減ってしまっている。	感染対策を踏まえつつ、地域高家や入居者の外出する機会を増やしていく。	栗橋の地域包括支援センターとの交流を深め、ご協力させてもらえるものを共に行っていく。来年度ではオレンジカフェを当施設でも場所提供にて開催していく予定。	6ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。